

## 伝えられなかった 感謝の気持ち

御福いつか(埼玉県)

震災当日は、自宅から電車で30分の幼なじみの家に、母と子どもと出かけていた。当時子どもはまだ8か月。突然の大きな揺れに驚きながらも、早く家に帰らなければの一心ですぐに駅に向かった。タクシーをひろい、同じ方向に歩いていとおじさんと相乗りすることに。母は途中で降り無事に家に着いたが、私とおじさんは直後に渋滞に巻き込まれてしまった。日は落ちて外は真っ暗。降りて歩くことになった。約8キロの道のりを、ベビーカーを押しておじさんと歩き続けた。信号や街灯の明かりもない暗闇のなか、道路を走る車のライトを頼りに、2時間

半かけてやっと家にたどり着いた。

しかし、大変なのはそこからだった。一人の男性に助けってもらっていいなかったら、どうなっていたかわからない。集合住宅の自宅も停電で真っ暗だった。5階まで子どもを抱えてベビーカーを運ぼうとしていたら、たまたま通りかかった住人らしき男性が声をかけてくれ手伝ってくれた。彼は駐車場で1歳の息子と二人で車の中で過ごしているとのことだった。私は夫と連絡がつかなく、どうしたらいいかわからないことを話した。真っ暗でお互いの顔も見えない中、少し話ができてホッとしたり。とりあえず家に入ったが、水が出ない。真っ暗で怖いのか子どもは泣き続けた。携帯も切れて誰とも連絡がつかなかった。なすすべもなく、途方に暮れていたら、ドアをドンドンと叩く音。さっきの男性だった。「近くの交流センターで避難者を受け入れているとのことなので、行ってみてはどうです

か？」私たちのためにわざわざ電話で聞いてくれたのだ。そこはいつも子育て支援が行われていて、ふだん親子で遊びに行っている場所。そこに行くなんて思いもつかなかった…。すぐに荷物をまとめて行ってみると多くの避難者が来ていた。私は子連れだったので、プレイルームを案内され、布団をかりて子どもと横になることができた。23時を過ぎてやっと夫と連絡がとれた。長い一日が終わった。

後日、助けてくれた男性にお礼を伝えようと伺ったところ、引越されたようでした。感謝の気持ちを伝えられないままになってしまった。この場をお借りして、お礼を言いたい。「元404号室のワカバヤシさん、あの時は本当にどうもありがとうございます」

震災を経験して感じたのは、いざという時助け合えるのは、離れた場所にいる家族ではなく、その時近くにいる人だと

いうこと。近所の男性から助けられただけでなく、自宅まで歩いた2時間半、おじさん、そして、そばを歩いていた周りの方たちから温かい声をかけられ励まされた。避難所でも他の避難者から食べ物を分けていただいた。子どもを守る立場の私が、知らない誰かから助けってもらったばかりだった。逆の立場で私も同じことができただろうか。感謝してもしきれない。震災を経験して、人と人とのつながりの大切さに、あらためて気づかされた。ふだんから困っている人に手をさしのべていくことが、この日助けてもらった方たちへの恩返しになると思っている。

